

# 山口県医療の風便り No.2

発行所 山口県健康福祉部医務課

〒753-8501 山口市滝町 1-1

TEL 083-933-2924 FAX 083-933-2939

平成17年12月25日号



写真：「漁師さんの祭り、大漁旗がひるがえる（萩市見島）」（山下 真氏 撮影）

「地域医療の現場より（萩市見島診療所 山下 真 医師）」	2
「山口の今！」	4
「トピックス『第1回医師を理解するセミナー』を開催しました」	5
「お知らせ：『山口県医療情報ネットワーク』をご存知ですか？」	6
「読者さんより一言！」	6
「山口県内医療機関紹介」（光市立大和総合病院）	6
今後継続発送を希望される方の手続き方法	7

## 「地域医療の現場より（萩市見島診療所 山下 真 医師）」

～ ヘリコプター患者搬送も行う、多趣味な若い医師 ～

第2回の「地域医療の現場より」は、2年前から、日本海に浮かぶ離島“萩市見島”の診療所に赴任していらっしゃる、山下 真先生にお話をうかがいました。

山下 真（やました まこと）医師プロフィール  
山口市出身。平成10年自治医科大学卒業。

山口県立総合医療センター（防府市）で2年間、初期臨床研修を受け、引き続き、錦中央病院（玖珂郡錦町）に3年間勤務。1年間の再研修をはさみ、その後、平成16年度より萩市見島に赴任。

「見島の医療・保健・福祉に少しでもお役に立てたら、という気持ちで臨みました。」と山下先生。

性格は優しく、多くの島民から慕われています。趣味は、読書、空手、島内散策など。「実は、見島に来て詩吟も始めたんですよ」という、多趣味で優しい若手ドクターです。

Q：見島でのお仕事の様子を聞かせてください。

A：見島には本村地区と宇津地区の2ヶ所に診療所があります。一般診療のほか、基本検診、職場検診、乳幼児健診や予防接種、往診などを行っています。また、ご高齢の方で、身体の不自由な方に対しては在宅医療も行っています。

離島の診療所といっても、レントゲン検査のほか、胃カメラ、超音波検査などもやっています。

それと、見島には画像転送システムがあるんです。例えば、診療所で撮影したレントゲン写真をデジタル回線で送り、萩市内の放射線科の先生に読影してもらうことができます。また日常診療上の疑問も、萩市内等の先生方に相談に応じていただいております。

島には福祉サービスもあり、その利用者の健康相談にも応じます。また、保健活動として、糖尿病を中心とした生活習慣病の健康教室も定期的を開催しています。

それと、島の学校医として、保育園、小・中学校の生徒さんの健診なども行います。子供からご高齢の方まで、さまざまな方とのふれあいがあるのは、「地域医療の魅力」の1つだと思っています。

Q：離島の診療所にも、いろいろな活躍の場があるのですね。ところで、離島だと、急患への対応はご苦労があるのでしょうか？

A：そうですね。急患で、病院での治療が必要で、すみやかに本土へ搬送しなければならないときにはちょっと大変です。定期船の時間と合えばいいのですが、急遽、漁船を出していただいたり、ヘリコプター搬送する場合があります。患者さんが無事本土の病院へ到着されたときは、本当にほっとします。逆に言えば、そこまでの初期診断、初期治療的確さが求められます。もちろん島には救急車はありませんので、私がお自宅へ駆けつけることもします。

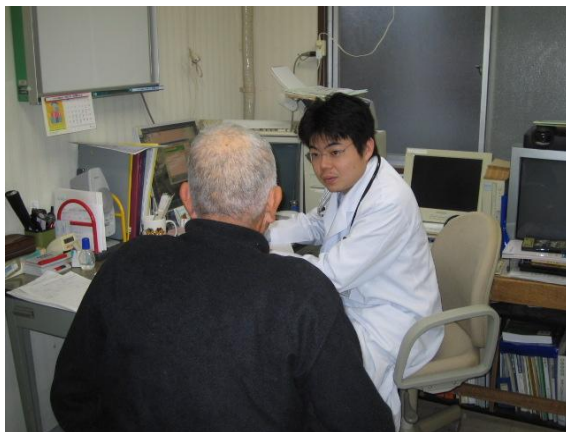


写真1

Q：離島で医療するっていうのは、つらいんじゃないですか…？

A：いえいえ、決してつらいことばかりではありませんよ。島民の方と道で出会った時などに「この前治療してもらってありがとうございました。」などと声をかけられるのは本当にうれしいものです。

また、島で疾患が発見され、本土の病院で治療、手術などを受けられまたお元気で島に帰って来られたときなどの喜びも大きいです。

住み慣れた見島の自宅で天寿を全うされる方もいらっしゃると思いますが、医師として身近に、継続して、お世話させていただくことができるのは、医者冥利につきるというものです。

Q：見島での生活はいかがですか？

A：見島は、大変親切で人情味豊かな方々ばかりです。初めて島に着任した時も、とても温かく迎えていただき、すぐに島の生活に慣れることができました。島民の方は漁業、農業を営み、長年この島を守ってこられました。そこには生活の知恵、明るさ、たくましさがあり、離島のハンディキャップなど感じられません。自然を大切にしながら自分たちの生活場所を守るといふ、人間の生き方の原点をみるようです。

また見島の自然はたいへん美しく、診療で疲れたときなども、丘に上がり日本海を望むと疲れも吹き飛んでしまいます。当地のお米、野菜、お魚はとてもおいしいんですよ。特に私はお魚が好きです。

お祭り、運動会、バードウォッチングなどの島内行事にも参加したり...、と今では見島での生活を満喫しています。

Q：多趣味ですね！そういえば、離島での講演や音楽のコンサート会も企画されたそうですね。

A：10月2日に、山口県立総合医療センター院長江里健輔先生、同センター研修医田村功先生と、「野ばらの会」という音楽のグループの方が、はるばる見島に来られ、ご講演とコンサートをしてくださいました。皆さん、ボランティアでご参加してくださったんですよ。

当日は、島民の方々が50人、会場にお越しく下さいました。まず江里先生が、「貴方の生活様式は年相応ですか？」という題で1時間の健康講演をされました。とても分かりやすい、優しい語りでした。そして時には「笑いあり」といった、すばらしいお話で大好評でした！講演内容は、「年齢

による生理的な変化と、病気とを区別して理解し、生理的な変化に対して必要以上に悩まないで下さい」ということや、「病気の治療法も、今は自分が選択する時代になってきています」、「高血圧症、糖尿病、またこれらの生活習慣病に関連した脳出血、脳梗塞、心臓病などの予防は、ある程度食事、運動等の自分の生活スタイルでコントロール可能なので、自覚し実践してください」、等のもので、多くの人が大きくならずにいました。



写真3

それと、「野ばらの会」(ヴォーカル・岡田靖子さん ピアノ・石田知子さん)のコンサートも行いました。「野ばらの会」の皆さんは、普段から、医療・福祉施設などでのコンサート、中学校でのコーラス指導等の活動をされている方々です。コンサートでは『ふるさと』、『みかんの花咲く丘』、『川の流れのように』、『上を向いて歩こう』など、参加されたご年配の方にはなつかしい曲ばかりで、いっしょに口ずさんでおられました。とても美しい歌声と、なかにはコミカルな演奏も交わり、会場で皆が楽しみました。

見島まで来てくださった、江里先生、田村先生、岡田さん、石田さんには、本当に感謝しています。ありがとうございました。



写真2



写真4

Q：最後に、若い読者の方にメッセージをお願いします。

A：その方の生まれ育った地域を知り、家族を知り、生活を知る。その上で身近に、継続的に患者さんと向き合えるのは、地域医療の大きな魅力です。現在の離島医療を通して、医師としてのみならず、見島の住民の一人として、一人の人間として多くの勉強をさせていただいているなあと、感じています。

Q：お忙しいところ、ありがとうございました。是非、これからもがんばってください！

A：がんばります。ありがとうございました。

#### 【写真について】

写真 1：診療所の診察室の1コマ。山下先生と顔なじみの患者さん。優しさと真剣さが伝わってきます。

写真 2：山下先生の好きな「見島牛放牧場からの眺め」

写真 3：大好評だった、江里先生の健康講話

写真 4：左側は、野ばらの会のヴォーカル・岡田さん。右側は、山下先生！

## 山 口 の 今 ！

助産師として取り上げた赤ちゃんが1万5千人を超える光市東荷(つかり)の長安幸子さん(77)が、日本公衆衛生協会から「公衆衛生事業功労賞」を贈られた。親子で取り上げられた人も多く、勤め先の病院では「いないと成り立たない女将(おかみ)のような存在だ」という。長安さんは「赤ちゃんが産声を上げてくれたときは、今でも大きな感動を与えてくれる」と話している。

功労賞は、病気の予防や健康増進、保健指導などで貢献した医師や看護師らに贈られている。県内では今年、5人が表彰され、助産師は長安さんだけだ。57年の助産師歴と、母乳育児の指導など地域健康づくりが認められた。

「医学の教科書に載っていないことができる人」長安さんは、光市にある勤め先の梅田病院の関係者からこう評価される。台風で病院が停電になった時、懐中電灯の明かりで、赤ちゃんを取り上げたこともある。

長安さんは43年、柳井市の看護養成所に入った。終戦後、助産師の資格を取り、59年から梅田病院で働き始めた。最初の10年間は病院に助

産師が長安さん1人しかいなかったので、600人を取り上げた年もある。

光市は「おっぱい都市宣言」をしており、長安さんは母乳での育児の指導にも力を入れている。

「母乳の分泌が少ない」「体重が増えない」と悩む母親から相談があれば、市外でも自宅に出向いて体をマッサージしながら話を聞くこともある。

母乳が少なかったり、仕事で忙しかったりする母親には、子どもを胸の中でしっかり抱きしめてあげるように訴える。

「哺乳(ほにゅう)びんのミルクでも良いから、しっかりと抱いて飲ませてあげて。母親の胸は最高の精神安定剤なんだから」。女将さんからのアドバイスだ。(朝日新聞 2005年11月29日より)



## トピックス：「第1回 医師を理解するセミナー」を開催しました

山口県・山口県立総合医療センター・山口大学医学部との共同企画！



今年8月、「第1回医師を理解するセミナー」を開催しました。これは、次世代の山口県を支えてくれる高校生などを対象として、山口県の医療について関心を持っていただき、将来、医師をはじめとした職種で活躍してもらうことを目的とした企画です。

山口県では、医師の地域偏在や診療科偏在という現状の改善に向け、様々な取組みを行っています。

最先端医療を施す専門科医師も、地域で活躍する総合医も、どちらも重要です。医療支援体制の整備や、それを支える優秀な医師の確保は、様々な社会的ニュースで取り上げられている重要なテーマです。

このセミナーは、山口県、山口県立総合医療センター、山口大学医学部の共催で、

総合医療センターの中で開催されたものでした。また、講演では、江里健輔院長先生や先崎医学部長先生をはじめ、山口大学大学院生、研修医、医学生といった多くの方々のご協力のおかげで、楽しく、内容の濃いものとすることができました。

参加者は約60名。セミナー修了後のアンケートでも、また企画してほしいという好意的な回答を多くいただきました。

今後は、夏休み以外の参加しやすい時期の設定や、対象者を中学生や高校1・2年生などにも広げた企画を検討中です。地道な取組ではありますが、いつかこの企画が実りを生むことを担当者としては夢見ています。

ご不明な点につきましては、下記山口県医務課にご連絡ください。

山口県は、若い力を求めています！

## お知らせ

### 「山口県医療情報ネットワーク」を ご存知ですか？

山口県では、医療機関が相互に連携することにより、医療の地域格差や医療機関の間での格差の是正を図るとともに、県民の方々に対する幅広い医療情報の提供を目指して、「山口県医療情報ネットワーク（通称 Yamame-Net）」を全県下に構築しました。

県民の方々に役立つ、診療可能な医療機関の情報や福祉介護機器情報等を「県民向けサイト」で提供しておりますので、インターネットで覗いてみてください。

#### 県民向けHPのアドレス

<http://www.med.pref.yamaguchi.jp>



## 読者さんより、一言！

（県内 Oさん）

第1号の「山口県医療の風便り」読みました。私、医学部生なのですが、大変参考になりました。これからも送付をお願いします。

（編集部：大変うれしいです！これからも良いものを作っていきます。）

## 山口県内 医療機関紹介

## ～ 光市立大和総合病院 ～

平成 16 年 10 月 4 日に光市と大和町が合併して、新「光市」が誕生し、町立大和総合病院は光市立大和総合病院になりました。

光市の東部に位置する大和地域は、初代内閣総理大臣伊藤博文公生誕の地として知られています。また、神籠石が取り巻く神秘的な石城山は県立自然公園に指定され、自然が豊かなまちです。

本院は、平成 13 年 4 月に増改築工事が完成し、現在は、一般病床 220 床、療養病床 60 床（内介護病床 8 床）診療科 18 科で運営し「小さなまちの大きな病院」として地域医療を担っています。

平成 13 年から 14 年にかけてオーダリングシステムを導入し、平成 16 年 1 月には複合病院としての病院機能評価の更新による認定を取得しました。また、合併と同時に地方公営企業法の全部を適用し病院事業管理者を配置しました。

自治体病院として患者の声を忘れないように、医療人として、「私たちは、地域の人々に、いつでも、だれにでも、より良い医療を提供し、愛され、親しまれ、信頼される病院づくりに努めます」の本院理念の基に、住民から選ばれ存在感のある病院になるよう医療の質を高め地域医療の役割を果したいと思っています。



